

(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部会報

『樹来 July』

第4号 (平成29年7月)



(新見市羅生門)
観察会の様子

【目次】

1. 平成29年度事業予定
 2. 平成28年度事業報告
 3. 岡山県支部活動報告
 4. 新規樹木医の紹介
 5. 会員からの投稿
 6. 連載
 7. 会員名簿および賛助会員名簿
 8. 編集後記
-

1. 平成29年度事業予定

(一社) 日本樹木医会中国地区協議会主催 (事務局岡山県支部) の講演会を行います。岡山県支部会員 國忠征美氏を講師に「樹木の土壌改良」と題し、様々な土壌改良による治療法を座学と実演を行います。

日 時 平成29年11月11日 (土) 13:00~16:00
場 所 岡山市半田山植物園 (岡山市北区法界院3-1)

2. 平成28年度事業報告

- (1) 平成28年 5月29日 岡山県支部総会
- (2) 平成28年 9月18日 (一社) 日本樹木医会中国地区協議会講習会
19日
- (3) 平成28年10月22日 「岡山市緑化推進フェア2015」に参加

3. 岡山県支部活動報告

- (1) (一社) 日本樹木医会中国地区協議会 (事務局岡山県支部) 講習会

植物分類学の知識向上、及び特殊剪定による外科治療の技術向上を目的として2日間にわたり開催しました。両日あわせて86名の参加者がありました。

『岡山の石灰岩地域の植生』 9/18

倉敷自然史博物館 狩山俊悟氏を講師に迎え、「新見市自然休暇村付近の乾燥石灰岩地帯」と「新見市羅生門付近の湿潤石灰岩地帯」の特徴ある植物の解説を聞きながら観察を行いました。その後、懇親会を開催し、情報交換など行い親睦を深めました。



『ツリークライミング剪定の技術』 9/19

岡山市半田山植物園でツリークライミングの方法や剪定技術についての座学と、園内のセンペルセコイアで実演講習を行いました。



4. 新規樹木医の紹介

(1) 阿部 剛俊(アベ タカトシ)

このたび (一社) 日本樹木医会岡山県支部に入会させていただきました、第26期生の阿部剛俊と申します。私は昭和45年生まれで、岡山県の林務職員をしており、真庭地域事務所の地域森林課に勤務しております。(平成29年3月現在)

私は平成9年度から20年度までの間、森林研究所に勤務し、三村さんとは同じ職場で過ごさせて頂く時期がありました。また、平成23年には、旧久世町で開催されたサクラの保護対策講習会に参加し、講師の原田さんの実体験に基づく講義を聴かせていただき、大変勉強になったのを覚えています。

このように、以前から樹木医さんや樹木医制度のことは知っており、興味はあったのですが、時間や費用の面からチャレンジを断念してきました。今回やっと受験し、合格することができました。

未熟者ですが、今後ともよろしく願いいたします。



(2) 山崎 真理(ヤマサキ マリ)

初めまして、山崎真理と申します。この度は、(一社) 日本樹木医会岡山県支部に入会させていただきました、ありがとうございます。

真庭市にて実家の所有林16ヘクタールほどを育成管理するため、技術を身に着けたいと思い林業の仕事を始め、現在も就業しております。樹木の伐採と販売だけでなく、育林をし



たいと思っており、樹木のことは勿論ですが、それだけでなくその木が育つ山の気候、立地、土壌、微生物も含む生態系の知識を幅広く身に付け、またフィールドの経験を通してその知識を深めていきたいという思いが強くなりました。

そうした時、樹木医という職業のことを知り、受験を勧めてくださった方もあり、受験いたしました。なんとか合格は致しましたものの、今更ながら先輩樹木医の皆様の幅広く深い知見とご活躍に驚き、自身の浅学に恥じ入るばかりです。岡山県樹木医会の皆様には、暖かく迎えていただき心より感謝申し上げます。本当に未熟者ですが今後とも、よろしく願い申し上げます。

5. 会員からの投稿

アテツマンサク保護育成 樹木医 (No. 340) 國忠征美

1. アテツマンサクとは

学名 *Hamamelis japonica* Siebold et Zucc. var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi

(1) 発見及び特徴

牧野富太郎博士が大正3年8月3日より9日まで現在の岡山県新見市周辺に於いて植物調査を行った時、8月5日午後、黒神山にてアテツマンサクを発見する。

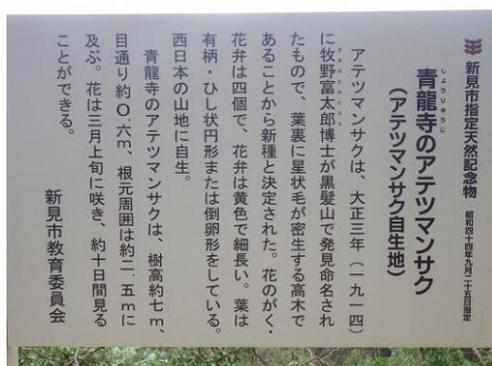
アテツマンサクの特徴は秋になっても葉裏の星状毛が残ることである。

(2) 分布と仲間

- ① 分布 本州 (兵庫県以西)、四国、九州
- ② 仲間 日本では種としてマンサク (広義) があり、その変種としてマンサク (狭義)、マルバマンサク、オオバマンサク、そしてアテツマンサクがある。因みに、アカバナマンサク、ニシキマンサクはマンサク (狭義) の品種 (f.) である。また、海外ではアメリカマンサク (バージニアナ)、シナマンサクなどが知られており、多くの改良種 (栽培品種) が販売されている。

(3) 岡山県内の自生地

花崗岩、流紋岩、蛇紋岩等の日当たり、風通し、土壌の排水が良く、A0層の少ない場所に自生している。



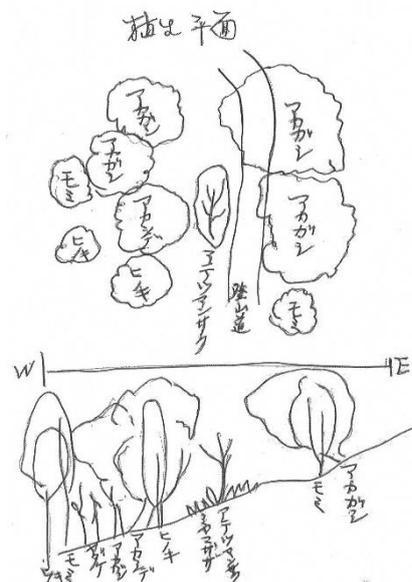
2. 今回治療対象であるアテツマンサクの以前の状況

(1) 周辺状況

アカシデ、アカガシ、ヒノキ、モミ、ヤダケ、ミヤマザサ等の植生があり、光線量が少なく地上2~2.5mで日中6000~6500ルクスとなっていた。

(2) 葉 枯葉症状が発生し同化作用が不良となっている。

枯葉症状とは
平成5年頃よりフォッサマグナより西に向かって発生。最後には枝、株まで枯らす症状で、平成7年滋賀県信楽町にて植生調査時にマンサクに出ていた。その後、岡山県奈義町で見られ全滅し、当方の庭に於いても発生が見られた。原因不明で病原菌も分離されていない。一部の人に聞くと土壌微生物、日当たり、通気性が原因と言われている。



- (3) 根元部分 ミヤコザサに被われ、腐葉土が10cm位堆積
 (4) 枯損枝 直径15cm位の幹の根元近くより枯損

3. 対策

- (1) 周囲の伐採 アカシデ、アカガシ、ヒノキ、モミ、ヤダケの伐採
 (2) 葉 休眠期12月、萌芽前3月下旬にキノンドー水和剤500倍液散布
 (3) 根元部分 ミヤコザサ抜根。A0層取り除き、その後伐採木で土止めを行い、鹿沼土
 (約150㎡) 150袋客土。施肥N-14 P-17 K-13を20kg施用。
 幹枯損部の処理 生きた部分より切除。防水剤塗布
 (4) 登山道部分 踏圧防止の為、丸太により歩経路

4. 今後

健全な自生地と同様な環境としたように思われ、今後の観察をみることである。

謝辞

最後に高知県立牧野植物園の小松加枝学芸員には資料提供ありがとうございました。また、(株)菱川グリーンの森田部長には施工ありがとうございました。

5. 参考資料

- ・北隆館 日本維管束植物目録 ・高知県立牧野植物園資料 牧野富太郎博士行動録
- ・平凡社 改訂新版 日本の野生植物 ・山と溪谷社 絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ
- ・植物和名一学名インデックス YList : <http://ylist.info/index.html>



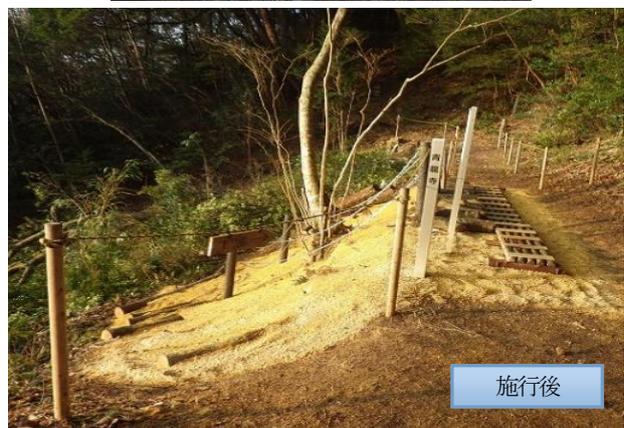
平成28年6月状況



施行前



平成28年6月葉枯症状



施行後

6. 連載

<進化論の果て>

<ダーウィンとファーブル>

ある日の本屋の店頭で「ファーブルが進化論批判の手紙をダーウィンに出してやりとりをしていた」というキャッチコピーに惹かれて「**進化論の最前線**」池田清彦著 インターナショナル新書を手にしたのは2017 Jan 19。

「そうかダーウィンとファーブルは同じ時代に生きて交流があったのか・・・」これが2017年の樹来原稿テーマの発端。

「ファーブル昆虫記全10巻」奥本 大三郎訳を予約したのは、もう10年近くも前、リタイヤ記念に予約して手元に出版済みの10巻上まである。確か「種の起源」も島の書棚にある筈、腰痛で帰省もままならなくて、近くの本屋で探したけど見つからない「お客さん 今、岩波文庫置いてる本屋さんは、ほとんどありませんよ」と店員さんの話。文庫は岩波文庫みたいな時代を生きた世代には「エーッ、今はそんな時代なのか」の驚き。Amazon注文。数日後には宅配で届いた。

ダーウィン『種の起源』発行は1859年、今から160年近くも前、出版と同時にベストセラーとなった。ダーウィン50歳で書き上げた本をファーブルが読んだのは36歳以降の筈。進化論に対して強く反対意見を持ったファーブルは自説を手紙に書いてダーウィンに進化論は間違っていると書き送ったのだと・・・。

見も知らぬイギリスの著者に南仏から抗議の手紙を書いたというだけで、ファーブルという人の強烈な個性が、伝わって来る。

ダーウィンも丁寧に返事をしたため、ファーブルの主張するハチの生態実験までしながら交流を続けたのだと・・・二人に共通する性格は、観察・実験を通じて自らの体験に基づいた真実から理論を構築していったこと。

ファーブルの「昆虫記」は日本人にとって目に触れる機会の多い著作であり、彼が大いなる観察者であったことは、比較的良く知られている。

ダーウィンについては「種の起源」の著者で進化論を唱えた人くらいの漠とした知識しかなかった私には、読み直した「種の起源」から、彼も類まれな観察者であったことへの驚き。イギリスのプリマスの港から世界一周の航海へ旅立ったのは23歳の若者ダーウィン。

当時命がけだった5年間の航海の記録を「ビートル号航海記」として取りまとめたのが30歳ころなのか。その後、この航海でinputされた記憶から、様々な疑問・人間とは何か・種とは何かの課題を探索し続けたダーウィンの20年の歳月。晩年、病を得て、より確かな理論に纏めたかったモチベーションの迷いの中、今やっておかなければ、生きてある内に自説を世に問う機会を失うかもの想いで「ON THE ORIGIN OF SPECIES」の執筆に取りかかったのだと・・・。

樹来原稿の依頼を受けて、改めて「種の起源」と「ファーブル昆虫記」を読み直しつつある2017年、もう古稀を迎えようという69歳の春。

ダーウィンは地質学者。ファーブルも理系の教師からスタートしているものの植物・動物などにも幅広い造詣を持っていた。

ある日、著者の親しい心の友から「ファーブル植物記」があることを知らされびっくり、これもAmazonで取り寄せパラパラ繙いてみた。

彼ら二人に共通する世界は「博物学」。地質学に加え植物や動物・鳥・虫、地理・気象など幅広いジャンルに好奇心を持ち、標本作り・スケッチ・記録を積み重ね、これら真実を元に彼等は「種の起源」「ファーブル昆虫記」を世に残した。

死んだ男の残したものは・・・ファーブルは「昆虫記」を、ダーウィンは「種の起源」を残した。

ほぼ彼らが著作を書き終えた年齢を過ぎ 人生の最終章を迎えた私。死んだ男の残したものは・・・谷川俊太郎の歌が流れてくる。

「死んだ男の残したものはひとりの妻とひとりの子ども他には何も残さなかった墓石ひとつ 残さなかった」この歌が流れたのは、ベトナム戦争のさなか1965年。

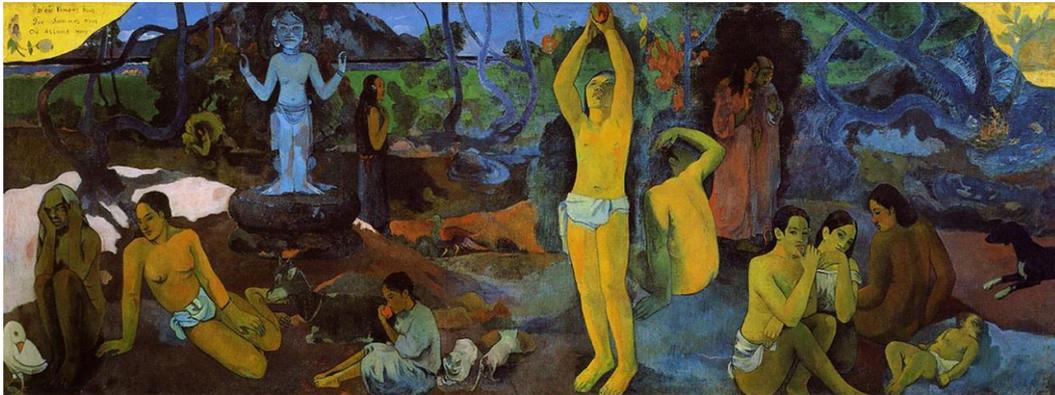
ファーブルが昆虫記を執筆した南仏のセリニャン近くにセザンヌのアトリエがあった。そしてゴーギャンと



ゴッホが暮らしたアルルも眼と鼻の先、彼等は生前出会ってもおかしくない時空に生きたという驚き。

ゴーギャンの遺作となった絵の題名「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」これは、ダーウィンの進化論のテーマ そのものなのだけれど、果たしてゴーギャンは「種の起源」を読んだのかどうか・・・。

ポール・ゴーギャン 1897 作 1903 没



ネット検索で博物学は、動物界・植物界・鉱物界の「3界」とあり、ダーウィンの時代以降、各分野での知識の集積が進み、ひとりの人間が三界の全部について専門的な研究を進めるのは困難な時代へ移行して行ったのだと・・・。

20世紀初頭の今、**樹木医**は、「**樹の命を守る**」視点から、逆に、これら動物界・植物界・鉱物界など専門化された知識を総合して、診断・治療にあたるというミッションであるような想いに囚われる。

「樹の命を守る」という世界には、「植物界」・「動物界」との関係性、更に目に見えない「菌界」との密接な関係が横たわり、生命という視点では、化学反応も最も重要なキーとなる。言い換えれば、樹木医は、18世紀初頭のダーウィンとファーブルの時代に遡り「**博物学的知識**」と「**Field work**」を通じた観察力そして深い洞察力を必要とされる職業かも知れない。

筑波での樹木医研修の帰途、新幹線車中。缶ビール片手にふと感じた、漠とした不安が甞ってくる。「試験には合格したものの、なんかまだ知らんこと多いな〜、今からもう一度、学び直さんといかんこといっぱいある・・・」
土壌・気象・病理・植物生理・獣まで・・・。

自然は38億年という長い生命史の中で様々な自然淘汰の試練をもたらして来た。生き延びた種、夥しい絶滅の歴史。ダーウィンの残した適者生存・自然選択説を根幹とする進化論。38億年という生命史の中で、ホモサピエンスという種の歴史は、たかだか20万年。

今、この時代、人類は進化の果てに、繁栄の頂点にあるかのように見えるものの、核・原発・ミサイル…。緊迫する北朝鮮情勢、人による災禍 進化の果ての絶滅。

戦争・核兵器 化学兵器による殺戮 原発 大気汚染 水質汚染 地球温暖化・・・その結果として「ホモサピエンスという種の絶滅」。これさえも、長い地球生命史の中では一つの自然淘汰なのか、あつてはならない「**進化論の果て**」への想い。明日かも知れない人類の絶滅への危うさ・・・。

今 今日 為すべきこと さて「死んだ男の残したものは・・・」・・・ゴミの山だけかもね〜(#^#)

30 Apr 2017 脱稿 文責 k.0chi

7. 図書紹介 樹木医 (No.2169) 中野

上巻、下巻の2部構成でイラストが多用され巻頭にはカラー写真も豊富、私達に馴染みの深い緑化植物の病害の事例など数多く紹介されており、標徴の写真と共に病原菌の顕微鏡写真がセットで掲載されている為、眺めているだけで植物の菌類病に対する興味をかき立てられました。

上巻では病原菌のグループ分けとそれぞれの菌群の代表的な属種の形態を図や写真、解説により紹介されています。ちょっと調べものを… はもちろん、ゆっくり腰を据えて勉強するにも十分な内容なのではないかと思います。

下巻では菌類病の診断方法が示されており病患部に現れる菌体の特徴、サンプル採取の方法、菌体を観察するための簡易プレパラート、徒手切片の作り方なども紹介されています。また、樹木腐朽については診断機器、マツノザイセンチュウ病やナラ枯れ病なども紙面を割かれています。ノートという一話完結の記事が上・下巻中に計22話掲載され、この記事だけでも大変読み応えがあり菌類等に対する造詣が一層深まる思いがします。



8. 会員名簿及び賛助会員名簿会員名簿および賛助会員名簿

登録番号	登録期	氏名	勤務先	役職
69	1期	山本 利幸		
112	2期	下川 利之	樹木病害虫診断監理	
170	3期	大山 浪雄	西日本樹芸研究所	
217	3期	原田 照太	原田樹木管理	
340	5期	国忠 征美	グローバルグリーン・クニタダ	
590	8期	佐藤 真也	佐藤真緑園	支部長
743	10期	古城 富士夫	古城愛朋園	研修委員
817	11期	片岡 栄一	(有) グリーンエース	副支部長
1116	13期	山本 國勝		
1030	13期	久保 滋則	(株) 武田芳翠園	
1141	14期	魚井 聖一	(株) 山都屋	監事
1314	15期	時光 邦憲	(公財) 岡山市公園協会	事務局
1520	17期	蔵岡 均		研修委員
1553	17期	永富 壽		
1621	18期	石部 友弘	(公財) 岡山市公園協会	会報編集委員
1856	20期	猪 雅人	(公財) 岡山市公園協会	
2004	21期	小林 智	庭智	
2169	22期	中野 聡	中野庭苑	会報編集委員
2182	22期	二瀬 洋平	井原市森林組合	
2212	23期	石原 祐軌	(独行) 森林総合研究所	
2356	24期	梶原 利廣	鳥取森林管理署	
2347	24期	岡坂 一司	(株) OFFICE YK21	
2465	25期	大賀 哲哉	岡山県農林水産総合センター	
2503	25期	重廣 一成		
2568	26期	阿部 剛俊	岡山県備前県民局森林企画課	
2666	26期	山崎 真理	日向林業	

賛助会員

<個人>	<法人>	
会員名	会員名	代表者等
青木 浩平	(株)武田芳翠園	武田 光弘
武田 浩晃	(株)山都屋	内山 淳
山本 寛		
森田 宜嗣		

9. 編集後記

「樹来July」第4号の発刊にあたり、投稿の依頼を快く受けてくださった会員の皆様にまずお礼を申し上げます。この会報を通じて、樹木医の活動を皆様に知ってもらい、樹木や自然に対する興味関心の向上に繋がればと考えております。美しい自然を次世代へ繋ぐため、われわれ樹木医はさらなる研鑽に励みその成果をお知らせしていきます。(次回の発行は、平成30年7月を予定しております。) 編集(中野 石部)



事務局
〒700-0004
岡山市北区法界院3-1 岡山市半田山植物園内
(一般社団法人) 日本樹木医会岡山県支部
TEL 086-252-4183